

上州ひと交差点

「太田ニット」再興を胸に

小学時代の文集に「自分で作る洋服のお店を持ちたい」と書いた。憧れはそのまま、今の仕事になった。

4年前、太田市に洋服や雑貨の店を開いた。2015年の春夏物から自社ブランド「to touch」を立ち上げ、自分でデザインした服を店に置き始めた。着心地と素材のよさが、目の肥えた女性たちの間で評判となり、東京で展示会を開くと、女性服の仕入れ担当者の目にとまった。自分の服は現在、百貨店など全国30店舗以上に並ぶ。モノを作って売る才覚は、小学生のころに芽生えた。手芸や絵を描くのが大好きだった。知り合いの雑貨店主に、

全国に女性服発信するデザイナー 山鹿直子さん (42)

布製トートバッグなどの手作りの小物を見せると、「直ちゃん、それかわいいね。うちの店に置かない？」と誘われた。店に並べた10個ほどが、すぐに売り切れた。

山口県下関市の出身。祖母や母が裁縫をするのを見て育ち、高校を出ると東京の服飾専門学校に進んだ。卒業後、ニット工場など、ものづくりの現場も経て、東京のアパレルメーカーに入社し、チーフデザイナーとして活躍した。会社では、20代でブランド

の立ち上げを任せられ、東京の自由が丘など直営3店の内装までデザインした。しかし、夫の雅明さん(42)の故郷の太田に、2人で店を開くことを決め、重役にまで上り詰めた会社を退職した。

独立する際、縫製工場から「応援するよ」と言われた。その言葉通り、少量の注文でも喜んで引き受けてくれた。太田がニット産業の集積地だったと、移り住んで初めて知った。1980年代に60社以上あったニット工場は今、市内に10社ほどしかない。

太田には呼び寄せられたような不思議な縁を感じる。自分の商品を通してニット素材のよさを全国に知ってもらい、「太田ニット」として再興できたらいい。そう考えている。(長田寿夫)



自分でデザインした洋服を手にする山鹿直子さん(太田市富沢町)